



旧下関地区（令和4年度）  
水質管理目標設定項目の検査(試験)頻度

検査項目	原水			浄水場の出口				給水栓							
	木屋川利水受水	内原	日御原	崎水	長府浄水場1・2号送水	長府浄水場3号送水	高尾配水池出口	日和山配水池出口	竹の子島給水栓	吉田地方給水栓	久野給水栓	中之町給水栓	老町給水栓	町御崎給水栓	
管30	アルミニウム及びその化合物	1※1	1※1	1※1	—	—	—	—	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	
管18	マンガン及びその化合物	1※1	1※1	1※1	—	—	—	—	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	
管17	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	1※1	1※1	1※1	—	—	—	—	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	
管24	蒸発残留物	1※1	1※1	1※1	—	—	—	—	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	
管26	pH値	1※2	1※2	1※2	—	—	—	—	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	
管25	濁度	1※2	1※2	1※2	—	—	—	—	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	
管01	アンチモン及びその化合物	1	1	1	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管02	ウラン及びその化合物	1	1	1	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管03	ニッケル及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管05	1,2-ジクロロエタン	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
管08	トルエン	—	—	1	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管09	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	1	1	1	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管10	亜塩素酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
管12	二酸化塩素	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
管13	ジクロロアセトニトリル	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管14	抱水クロラール	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管15	農薬類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
管16	残留塩素	—	—	—	—	—	—	—	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	
管19	遊離炭酸	1	1	1	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管20	1,1,1-トリクロロエタン	1	1	1	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管21	メチル-t-ブチルエーテル	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
管22	有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	1	1	1	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管23	臭気強度(TON)	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管27	腐食性(ランゲリア指数)	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管28	従属栄養細菌	1	1	1	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	
管29	1,1-ジクロロエチレン	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
管31	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOA)及びペルフルオロオクタニル酸(PFOA)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

備考 ① ※1は、水質基準項目の検査(試験)と重複するため水質管理目標設定項目の検査(試験)としては実施しない  
② ※2は、同日に実施する水質基準項目の検査(試験)において測定するもの

クリプトスポリジウム等及び指標菌の検査頻度

検査項目	原水			浄水場の出口				給水栓							
	木屋川利水受水	内原	日御原	崎水	長府浄水場1・2号送水	長府浄水場3号送水	高尾配水池出口	日和山配水池出口	竹の子島給水栓	吉田地方給水栓	久野給水栓	中之町給水栓	老町給水栓	町御崎給水栓	
クリプトスポリジウム等	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
大腸菌	1※	1※	4※	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
嫌気性芽胞菌	1	1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

備考 ※は、同日に実施する水質基準項目の試験において測定するもの

豊浦地区（令和4年度）  
水質基準項目の検査（試験）頻度

検査項目	原水					浄水場の出口 川棚浄水場 水送	給水栓 湯玉北 給水栓	基本の 検査頻度	検査頻度の設定理由
	川棚第1 原水	川棚第2 原水	川棚第3 原水	川棚第4 原水	川棚第5 原水				
基01	一般細菌	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基02	大腸菌	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基03	カドミウム及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基04	水銀及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基05	セレン及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基06	鉛及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基07	ヒ素及びその化合物	4	4	4	4	4	4	4	原水の状態から、基本の検査頻度とする。
基08	六価クロム化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基09	亜硝酸態窒素	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基10	シアン化物イオン及び塩化シアン	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基11	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基12	フッ素及びその化合物	4	4	4	4	4	4	4	原水の状態から、基本の検査頻度とする。
基13	ホウ素及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基14	四塩化炭素	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基15	1,4-ジオキサン	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基16	シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基17	ジクロロメタン	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基18	テトラクロロエチレン	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基19	トリクロロエチレン	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基20	ベンゼン	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基21	塩素酸	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基22	クロロ酢酸	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基23	クロロホルム	4	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。なお、川棚第1原水は定量下限値付近での検出があるため、年4回とする。
基24	ジクロロ酢酸	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基25	ジプロモクロロメタン	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基26	臭素酸	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基27	総トリハロメタン	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基28	トリクロロ酢酸	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基29	プロモジクロロメタン	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基30	プロモホルム	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基31	ホルムアルデヒド	—	—	—	—	—	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基32	亜鉛及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基33	アルミニウム及びその化合物	4	4	4	4	4	4	4	浄水処理に使用する薬品の使用状況から、基本の検査頻度とする。
基34	鉄及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基35	銅及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基36	ナトリウム及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基37	マンガン及びその化合物	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基38	塩化物イオン	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基39	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基40	蒸発残留物	4	4	4	4	4	4	4	過去に基準値の1/5を超過した事例があるため、基本の検査頻度とする。
基41	陰イオン界面活性剤	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基42	ジエオスミン <sup>※1</sup>	1	1	1	1	1	12	12	基本の検査頻度とする。なお、地下水を水源とする原水では当該項目を検出するおそれは極めて低いが、年1回試験を実施する。
基43	2-メチルイソボルネオール <sup>※2</sup>	1	1	1	1	1	12	12	基本の検査頻度とする。なお、地下水を水源とする原水では当該項目を検出するおそれは極めて低いが、年1回試験を実施する。
基44	非イオン界面活性剤	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基45	フェノール類	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基46	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基47	pH値	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基48	味	—	—	—	—	—	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基49	臭気	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基50	色度	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基51	濁度	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。

備考 ① ※1の正式名：(4S, 4aS, 8aR)-オクタヒドロ-4, 8a-ジメチルナフタレン-4a(2H)-オール  
 ② ※2の正式名：1, 2, 7, 7-テトラメチルピシクロ[2, 2, 1]ヘプタン-2-オール  
 ③ 残留塩素の検査を、水質基準項目の検査と併せて年12回（毎月）実施する。

豊浦地区（令和4年度）  
水質管理目標設定項目の検査(試験)頻度

検査項目	原水					浄水場の出口 川棚浄水場 水送	給水栓 湯玉北 水栓
	川棚第1 水原	川棚第2 水原	川棚第3 水原	川棚第4 水原	川棚第5 水原		
管30	アルミニウム及びその化合物	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1
管18	マンガン及びその化合物	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1
管17	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1
管24	蒸発残留物	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1
管26	pH値	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2
管25	濁度	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2
管01	アンチモン及びその化合物	1	1	1	1	1	1
管02	ウラン及びその化合物	1	1	1	1	1	1
管03	ニッケル及びその化合物	—	—	—	—	—	1
管05	1,2-ジクロロエタン	1	1	1	1	1	1
管08	トルエン	1	1	1	1	1	1
管09	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	1	1	1	1	1	1
管10	亜塩素酸	—	—	—	—	—	—
管12	二酸化塩素	—	—	—	—	—	—
管13	ジクロロアセトニトリル	—	—	—	—	—	1
管14	抱水クロラール	—	—	—	—	—	1
管15	農薬類	—	—	—	—	—	—
管16	残留塩素	—	—	—	—	—	1※2
管19	遊離炭酸	1	1	1	1	1	1
管20	1,1,1-トリクロロエタン	1	1	1	1	1	1
管21	メチル-t-ブチルエーテル	1	1	1	1	1	1
管22	有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	1	1	1	1	1	1
管23	臭気強度(TON)	—	—	—	—	—	1
管27	腐食性(ランゲリア指数)	—	—	—	—	—	1
管28	従属栄養細菌	1	1	1	1	1	1
管29	1,1-ジクロロエチレン	1	1	1	1	1	1
管31	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOA) 及びペルフルオロオクタニル酸(PFOA)	—	—	—	—	—	—

備考 ① ※1は、水質基準項目の検査(試験)と重複するため水質管理目標設定項目の検査(試験)としては実施しない  
② ※2は、同日に実施する水質基準項目の検査(試験)において測定するもの

クリプトスポリジウム等及び指標菌の検査頻度

検査項目	原水					浄水場の出口 川棚浄水場 水送	給水栓 湯玉北 水栓
	川棚第1 水原	川棚第2 水原	川棚第3 水原	川棚第4 水原	川棚第5 水原		
クリプトスポリジウム等	1	1	1	1	1	—	—
大腸菌	1※	1※	1※	1※	1※	—	—
嫌気性芽胞菌	1	1	1	1	1	—	—

備考 ※は、同日に実施する水質基準項目の試験において測定するもの

豊北地区（令和4年度）  
水質基準項目の検査（試験）頻度

	検査項目	原水		給水栓		基本の検査頻度	検査頻度の設定理由
		市の瀬原水	小河水	見角給水栓	島給水栓		
基01	一般細菌	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基02	大腸菌	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基03	カドミウム及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基04	水銀及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基05	セレン及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基06	鉛及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基07	ヒ素及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基08	六価クロム化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基09	亜硝酸態窒素	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基10	シアン化物イオン及び塩化シアン	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基11	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基12	フッ素及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基13	ホウ素及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基14	四塩化炭素	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基15	1,4-ジオキサン	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基16	シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基17	ジクロロメタン	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基18	テトラクロロエチレン	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基19	トリクロロエチレン	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基20	ベンゼン	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基21	塩素酸	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基22	クロロ酢酸	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基23	クロロホルム	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基24	ジクロロ酢酸	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基25	ジブロモクロロメタン	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基26	臭素酸	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基27	総トリハロメタン	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基28	トリクロロ酢酸	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基29	ブロモジクロロメタン	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基30	ブロモホルム	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基31	ホルムアルデヒド	—	—	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基32	亜鉛及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基33	アルミニウム及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基34	鉄及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基35	銅及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基36	ナトリウム及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基37	マンガン及びその化合物	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基38	塩化物イオン	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基39	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基40	蒸発残留物	4	1	4	1	4	過去に基準値の1/5を超過した事例があるため、基本の検査頻度とする。角島給水栓では過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基41	陰イオン界面活性剤	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基42	ジェオスミン <sup>※1</sup>	1	1	1	1	12	二見給水栓及び角島給水栓については、地下水を原水としており、当該項目を産出する藻類発生のおそれがないため年1回とする。なお、地下水を水源とする原水では当該項目を検出するおそれは極めて低いが、年1回試験を実施する。
基43	2-メチルイソボルネオール <sup>※2</sup>	1	1	1	1	12	二見給水栓及び角島給水栓については、地下水を原水としており、当該項目を産出する藻類発生のおそれがないため年1回とする。なお、地下水を水源とする原水では当該項目を検出するおそれは極めて低いが、年1回試験を実施する。
基44	非イオン界面活性剤	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基45	フェノール類	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基46	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基47	pH値	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基48	味	—	—	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基49	臭気	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基50	色度	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基51	濁度	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。

備考 ① ※1の正式名：(4S, 4aS, 8aR)-オクタヒドロ-4, 8a-ジメチルナフタレン-4a(2H)-オール  
 ② ※2の正式名：1, 2, 7, 7-テトラメチルピシクロ[2, 2, 1]ヘプタン-2-オール  
 ③ 残留塩素の検査を、水質基準項目の検査と併せて年12回（毎月）実施する。



豊北地区（令和4年度）  
水質管理目標設定項目の検査(試験)頻度

	検査項目	原水		給水栓	
		市の原水	瀬小河内水	二見角給水栓	島給水栓
管30	アルミニウム及びその化合物	1※1	1※1	1※1	1※1
管18	マンガン及びその化合物	1※1	1※1	1※1	1※1
管17	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	1※1	1※1	1※1	1※1
管24	蒸発残留物	1※1	1※1	1※1	1※1
管26	pH値	1※2	1※2	1※2	1※2
管25	濁度	1※2	1※2	1※2	1※2
管01	アンチモン及びその化合物	1	1	1	1
管02	ウラン及びその化合物	1	1	1	1
管03	ニッケル及びその化合物	—	—	1	1
管05	1,2-ジクロロエタン	1	1	1	1
管08	トルエン	1	1	1	1
管09	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	1	1	1	1
管10	亜塩素酸	—	—	—	—
管12	二酸化塩素	—	—	—	—
管13	ジクロロアセトニトリル	—	—	1	1
管14	抱水クロラール	—	—	1	1
管15	農薬類	—	—	—	—
管16	残留塩素	—	—	1※2	1※2
管19	遊離炭酸	1	1	1	1
管20	1,1,1-トリクロロエタン	1	1	1	1
管21	メチル-t-ブチルエーテル	1	1	1	1
管22	有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	1	1	1	1
管23	臭気強度(TON)	—	—	1	1
管27	腐食性(ランゲリア指数)	—	—	1	1
管28	従属栄養細菌	1	1	1	1
管29	1,1-ジクロロエチレン	1	1	1	1
管31	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOA)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)	—	—	—	—

備考 ① ※1は、水質基準項目の検査(試験)と重複するため水質管理目標設定項目の検査(試験)としては実施しない  
② ※2は、同日に実施する水質基準項目の検査(試験)において測定するもの

クリプトスポリジウム等及び指標菌の検査頻度

検査項目	原水		給水栓	
	市の原水	瀬小河内水	二見角給水栓	島給水栓
クリプトスポリジウム等	1	1	—	—
大腸菌	1※	1※	—	—
嫌気性芽胞菌	1	1	—	—

備考 ※は、同日に実施する水質基準項目の試験において測定するもの

菊川地区（令和4年度）  
水質基準項目の検査（試験）頻度

検査項目	原水							浄水場の出口		給水栓				基本の検査頻度	検査頻度の設定理由				
	木田部	屋原	川田第1	田部第2	部原	歌野川ダム	歌野	道野	市原	菊川浄水場	歌野浄水場	岡給	枝給			樋給	崎給	巒給	井給
基01 一般細菌	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基02 大腸菌	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基03 カドミウム及びその化合物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基04 水銀及びその化合物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基05 セレン及びその化合物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基06 鉛及びその化合物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基07 ヒ素及びその化合物	4	4	4	1	1	4	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	4	過去に基準値の1/5を超過した事例があるため、基本の検査頻度とする。樋給水栓では過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基08 六価クロム化合物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基09 亜硝酸態窒素	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基10 シアン化物イオン及び塩化シアン	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基11 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	1	4	4	1	1	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。岡枝給水栓では原水の状況から、基本の検査頻度とする。
基12 フッ素及びその化合物	1	1	1	1	4	1	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。樋給水栓では原水の状況から、基本の検査頻度とする。
基13 ホウ素及びその化合物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基14 四塩化炭素	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基15 1,4-ジオキサン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基16 シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基17 ジクロロメタン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基18 テトラクロロエチレン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基19 トリクロロエチレン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基20 ベンゼン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基21 塩素酸	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基22 クロロ酢酸	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基23 クロロホルム	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基24 ジクロロ酢酸	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基25 ジブロモクロロメタン	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基26 臭素酸	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基27 総トリハロメタン	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基28 トリクロロ酢酸	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基29 プロモジクロロメタン	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基30 ブロモホルム	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基31 ホルムアルデヒド	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基32 亜鉛及びその化合物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基33 アルミニウム及びその化合物	1	1	1	4	4	1	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	浄水処理に使用する薬品の使用状況から、基本の検査頻度とする。岡枝給水栓及び巒給水栓では浄水処理にアルミニウムを使用しておらず、また、過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基34 鉄及びその化合物	1	1	1	4	4	1	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	過去に基準値の1/5を超過した事例があるため、基本の検査頻度とする。岡枝給水栓及び巒給水栓では過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基35 銅及びその化合物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基36 ナトリウム及びその化合物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基37 マンガン及びその化合物	1	1	1	4	1	1	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。樋給水栓では、歌野川ダムで高濃度のマンガンが検出されるおそれがあることから、基本の検査頻度とする。
基38 塩化物イオン	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基39 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基40 蒸発残留物	1	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に基準値の1/5を超過した事例があるため、基本の検査頻度とする。岡枝給水栓及び樋給水栓では過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基41 陰イオン界面活性剤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基42 ジェオスミン <sup>※1</sup>	12	1	1	12	1	1	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	基本の検査頻度とする。巒給水栓については、地下水を原水としており、当該項目を産出する藻類発生のおそれがないため年1回とする。なお、道市原水では当該項目を検出するおそれは極めて低いが、年1回試験を実施する。
基43 2-メチルイソボルネオール <sup>※2</sup>	12	1	1	12	1	1	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	基本の検査頻度とする。巒給水栓については、地下水を原水としており、当該項目を産出する藻類発生のおそれがないため年1回とする。なお、道市原水では当該項目を検出するおそれは極めて低いが、年1回試験を実施する。
基44 非イオン界面活性剤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基45 フェノール類	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基46 有機物(全有機炭素(TOC)の量)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基47 pH値	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基48 味	—	—	—	—	—	—	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基49 臭気	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基50 色度	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基51 濁度	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。

備考 ① ※1の正式名：(4S, 4aS, 8aR)-オクタヒドロ-4, 8a-ジメチルナフタレン-4a(2H)-オール  
 ② ※2の正式名：1, 2, 7, 7-テトラメチルピシクロ[2, 2, 1]ヘプタン-2-オール  
 ③ 残留塩素の検査を、水質基準項目の検査と併せて年12回（毎月）実施する。

菊川地区（令和4年度）  
水質管理目標設定項目の検査(試験)頻度

検査項目	原水							浄水場の出口		給水栓		
	木 田 部 原 水	屋 川 第 1 原 水	田 部 第 2 原 水	部 野 川 ダ ム 原 水	歌 野 水 原	野 道 水 原	市 水	菊 川 浄 水 場 送 水	歌 野 浄 水 場 送 水	岡 給 水 栓	枝 楢 給 水 栓	崎 樽 給 水 栓
管30	アルミニウム及びその化合物	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	—	—	1※1	1※1	1※1
管18	マンガン及びその化合物	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	—	—	1※1	1※1	1※1
管17	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	—	—	1※1	1※1	1※1
管24	蒸 発 残 留 物	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	1※1	—	—	1※1	1※1	1※1
管26	pH値	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	—	—	1※2	1※2	1※2
管25	濁 度	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	1※2	—	—	1※2	1※2	1※2
管01	アンチモン及びその化合物	1	1	1	1	1	1	—	—	1	1	1
管02	ウラン及びその化合物	1	1	1	1	1	1	—	—	1	1	1
管03	ニッケル及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管05	1,2-ジクロロエタン	—	1	1	—	1	1	—	—	1	1	1
管08	ト ル エ ン	—	1	1	—	1	1	—	—	1	1	1
管09	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	1	1	1	1	1	1	—	—	1	1	1
管10	亜 塩 素 酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管12	二 酸 化 塩 素	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管13	ジクロロアセトニトリル	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管14	抱 水 ク ロ ラ ー ル	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管15	農 薬 類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管16	残 留 塩 素	—	—	—	—	—	—	—	—	1※2	1※2	1※2
管19	遊 離 炭 酸	1	1	1	1	1	1	—	—	1	1	1
管20	1,1,1-トリクロロエタン	1	1	1	1	1	1	—	—	1	1	1
管21	メチル-t-ブチルエーテル	—	1	1	—	1	1	—	—	1	1	1
管22	有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	1	1	1	1	1	1	—	—	1	1	1
管23	臭 気 強 度 (TON)	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管27	腐食性(ランゲリア指数)	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管28	従 属 栄 養 細 菌	1	1	1	1	1	1	—	—	1	1	1
管29	1,1-ジクロロエチレン	—	1	1	—	1	1	—	—	1	1	1
管31	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタニルホン酸(PFOA)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 ① ※1は、水質基準項目の検査(試験)と重複するため水質管理目標設定項目の検査(試験)としては実施しない  
② ※2は、同日に実施する水質基準項目の検査(試験)において測定するもの

クリプトスポリジウム等及び指標菌の検査頻度

検査項目	原水							浄水場の出口		給水栓		
	木 田 部 原 水	屋 川 第 1 原 水	田 部 第 2 原 水	部 野 川 ダ ム 原 水	歌 野 水 原	野 道 水 原	市 水	菊 川 浄 水 場 送 水	歌 野 浄 水 場 送 水	岡 給 水 栓	枝 楢 給 水 栓	崎 樽 給 水 栓
クリプトスポリジウム等	1	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—
大 腸 菌	1※	1※	1※	1※	1※	4※	—	—	—	—	—	—
嫌 気 性 芽 胞 菌	1	1	1	1	1	4	—	—	—	—	—	—

備考 ※は、同日に実施する水質基準項目の試験において測定するもの



豊田地区（令和4年度）  
水質基準項目の検査（試験）頻度

検査項目	原水				浄水場の出口			給水栓			基本の検査頻度	検査頻度の設定理由	
	白根川 支流原水	木 大内原水	屋川 櫛原原水	川 見原	三 配水池出口	豊 大内	河 内	櫛 原浄水場 送水	今 給水	出 給水			敷 殿給水
基01	一般細菌	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基02	大腸菌	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基03	カドミウム及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基04	水銀及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基05	セレン及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基06	鉛及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基07	ヒ素及びその化合物	1	4	4	4	1	4	4	1	4	4	4	原水の状態から、基本の検査頻度とする。今出給水栓では過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。
基08	六価クロム化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基09	亜硝酸態窒素	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基10	シアン化物イオン及び塩化シアン	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基11	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基12	フッ素及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基13	ホウ素及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基14	四塩化炭素	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基15	1,4-ジオキサン	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基16	シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基17	ジクロロメタン	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基18	テトラクロロエチレン	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基19	トリクロロエチレン	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。殿居給水栓では原水の状態から、基本の検査頻度とする。
基20	ベンゼン	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基21	塩素酸	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基22	クロロ酢酸	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基23	クロロホルム	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基24	ジクロロ酢酸	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基25	ジブromクロロメタン	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基26	臭素酸	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基27	総トリハロメタン	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基28	トリクロロ酢酸	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基29	ブromジクロロメタン	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基30	ブromホルム	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基31	ホルムアルデヒド	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基32	亜鉛及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基33	アルミニウム及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。殿居給水栓については浄水処理に使用する薬品の使用状況から、基本の検査頻度とする。
基34	鉄及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基35	銅及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基36	ナトリウム及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基37	マンガン及びその化合物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基38	塩化物イオン	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基39	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	4	1	4	4	4	1	4	4	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。今出給水栓では過去に基準値の1/5を超過した事例があるため、基本の検査頻度とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基40	蒸発残留物	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基41	陰イオン界面活性剤	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基42	ジェオスミン <sup>※1</sup>	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基43	2-メチルイソボルネオール <sup>※2</sup>	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基44	非イオン界面活性剤	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基45	フェノール類	1	1	4	4	1	1	4	1	1	4	4	過去に高濃度の検出がなく、水源での汚染の可能性も低いため、年1回とする。櫛原浄水場豊田西送水及びその系統は、令和2年度、浄水場更新により処理方法が変更になったため、3年間は検査頻度の減ができない。
基46	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基47	pH値	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基48	味	—	—	—	—	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基49	臭	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基50	色	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。
基51	濁	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	検査頻度の減は不可であるため、基本の検査頻度とする。

備考 ① ※1の正式名：(4S, 4aS, 8aR)-オクタヒドロ-4, 8a-ジメチルナフタレン-4a(2H)-オール  
 ② ※2の正式名：1, 2, 7, 7-テトラメチルピシクロ[2, 2, 1]ヘプタン-2-オール  
 ③ 残留塩素の検査を、水質基準項目の検査と併せて年12回（毎月）実施する。

豊田地区（令和4年度）  
水質管理目標設定項目の検査(試験)頻度

検査項目	原水				浄水場の出口			給水栓			
	白根川支流	木屋川大河内	木屋川橋原	稲見川原	三河浄水場	豊大内浄水場	河内橋原浄水場	今出殿	敷殿	居	
管30	アルミニウム及びその化合物	1※1	1※1	1※1	1※1	—	—	—	1※1	1※1	1※1
管18	マンガン及びその化合物	1※1	1※1	1※1	1※1	—	—	—	1※1	1※1	1※1
管17	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	1※1	1※1	1※1	1※1	—	—	—	1※1	1※1	1※1
管24	蒸発残留物	1※1	1※1	1※1	1※1	—	—	—	1※1	1※1	1※1
管26	pH値	1※2	1※2	1※2	1※2	—	—	—	1※2	1※2	1※2
管25	濁度	1※2	1※2	1※2	1※2	—	—	—	1※2	1※2	1※2
管01	アンチモン及びその化合物	1	1	1	1	—	—	—	1	1	1
管02	ウラン及びその化合物	1	1	1	1	—	—	—	1	1	1
管03	ニッケル及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管05	1,2-ジクロロエタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管08	トルエン	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管09	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	1	1	1	1	—	—	—	1	1	1
管10	亜塩素酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管12	二酸化塩素	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管13	ジクロロアセトニトリル	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管14	抱水クロラール	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管15	農薬類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管16	残留塩素	—	—	—	—	—	—	—	1※2	1※2	1※2
管19	遊離炭酸	1	1	1	1	—	—	—	1	1	1
管20	1,1,1-トリクロロエタン	1	1	1	1	—	—	—	1	1	1
管21	メチル-t-ブチルエーテル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管22	有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	1	1	1	1	—	—	—	1	1	1
管23	臭気強度(TON)	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管27	腐食性(ランゲリア指数)	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
管28	従属栄養細菌	1	1	1	1	—	—	—	1	1	1
管29	1,1-ジクロロエチレン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管31	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOA)及びペルフルオロオクタニル酸(PFOA)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 ① ※1は、水質基準項目の検査(試験)と重複するため水質管理目標設定項目の検査(試験)としては実施しない  
 ② ※2は、同日に実施する水質基準項目の検査(試験)において測定するもの

クリプトスポリジウム等及び指標菌の検査頻度

検査項目	原水				浄水場の出口			給水栓		
	白根川支流	木屋川大河内	木屋川橋原	稲見川原	三河浄水場	豊大内浄水場	河内橋原浄水場	今出殿	敷殿	居
クリプトスポリジウム等	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—
大腸菌	1※	1※	1※	1※	—	—	—	—	—	—
嫌気性芽胞菌	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—

備考 ※は、同日に実施する水質基準項目の試験において測定するもの

水質基準項目の試験頻度

	検査項目	木屋川水系						綾羅木川水系					
		S t . 3	木屋川ダム1 (0 m)	S t . 4	S t . 7	湯の原ダム 取水口	歌野川ダム (0 m)	音無川	山根川	赤田代川	内日第1貯水池 (0 m)	内日第2貯水池 (0 m)	
基01	一般細菌	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
基02	大腸菌	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
基03	カドミウム及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基04	水銀及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基05	セレン及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基06	鉛及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基07	ヒ素及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基08	六価クロム化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基09	亜硝酸態窒素	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基10	シアン化物イオン及び塩化シアン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基11	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基12	フッ素及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基13	ホウ素及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基14	四塩化炭素	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基15	1,4-ジオキサン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基16	シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基17	ジクロロメタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基18	テトラクロロエチレン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基19	トリクロロエチレン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基20	ベンゼン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基21	塩素酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基22	クロロ酢酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基23	クロロホルム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基24	ジクロロ酢酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基25	ジブロモクロロメタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基26	臭素酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基27	総トリハロメタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基28	トリクロロ酢酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基29	ブロモジクロロメタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基30	ブromoホルム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基31	ホルムアルデヒド	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基32	亜鉛及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基33	アルミニウム及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基34	鉄及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基35	銅及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基36	ナトリウム及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基37	マンガン及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基38	塩化物イオン	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
基39	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基40	蒸発残留物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基41	陰イオン界面活性剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基42	ジェオスミン※1	—	4	4	4	4	4	—	—	—	4	4	
基43	2-メチルイソボルネオール※2	—	4	4	4	4	4	—	—	—	4	4	
基44	非イオン界面活性剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基45	フェノール類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基46	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
基47	pH値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
基48	味	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基49	臭気	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
基50	色度	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
基51	濁度	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	

備考 ① ※1の正式名：(4S, 4aS, 8aR)-オクタヒドロ-4, 8a-ジメチルナフタレン-4a(2H)-オール  
 ② ※2の正式名：1, 2, 7, 7-テトラメチルビシクロ[2, 2, 1]ヘプタン-2-オール

水質管理目標設定項目の試験頻度

管	検査項目	木屋川水系					綾羅木川水系					
		S t . 3	木屋川ダム1 ( 0 m )	S t . 4	S t . 7	湯の原ダム 取水口	歌野川ダム ( 0 m )	音無川	山根川	赤田代川	内日第1貯水池 ( 0 m )	内日第2貯水池 ( 0 m )
管30	アルミニウム及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管18	マンガン及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管17	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管24	蒸 発 残 留 物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管26	p H値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管25	濁 度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管01	アンチモン及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管02	ウラン及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管03	ニッケル及びその化合物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管05	1,2-ジクロロエタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管08	ト ル エ ン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管09	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管10	亜 塩 素 酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管12	二 酸 化 塩 素	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管13	ジクロロアセトニトリル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管14	抱 水 ク ロ ラ ール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管15	農 薬 類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管16	残 留 塩 素	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管19	遊 離 炭 酸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管20	1,1,1-トリクロロエタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管21	メチル-t-ブチルエーテル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管22	有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管23	臭 気 強 度 (TON)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管27	腐食性(ランゲリア指数)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管28	従 属 栄 養 細 菌	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管29	1,1-ジクロロエチレン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管31	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS) 及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考